

消毒液の取り扱いに注意しよう！

その4 次亜塩素酸水を購入するとき

経済産業省が推しまくった結果、各地のドラッグストアでは粗悪乱造状態の次亜塩素酸水と、次亜塩素酸水を作れると謳われる商品、また次亜塩素酸水を噴霧するマシンなどが売られるに至っています。この記事を書いている人は、神奈川に本社を持つ某ドラッグストアチェーン店で0レジ待ちをしているときに、レジの前に大量に積み上げられていた除菌水として売られているスプレーボトルを手にとって中身を見たところ、「成分：次亜塩素酸」「弱酸性」の2つしか書かれておらず、ひっくり返りそうになりました。これでは怖くて買えませんのでそっと戻しました。

次亜塩素酸を謳う製品が粗悪乱造されすぎて

ついに経済産業省も手のひら返りで調査へ

次亜塩素酸に関する製品について、あまりに**企業倫理、工業倫理（いわゆるコンプライアンス）的によろしくないものが多い**ため、経済産業省はNITEを通じて「次亜塩素酸水等の販売実態についてファクトシート」を公表し、随時更新しています。裏面に6月9日時点のファクトシートを添付していますので、こういった製品表記がよろしくないのか、確認してみてください。

僕の利点だけじゃなく、
 欠点も知ってほしいなあ



実は買わなくても手に入る次亜塩素酸水

次亜塩素酸水のスプレーボトル、筆者が確認したところ、上記のような粗悪乱造品でも1200円～3000円くらいで売られています。買うのに躊躇します。

ところで、当区の乗務員食堂にアルカリイオン整水器があります。水道水を電気分解して陰極側に水酸化イオンと水素を発生させ、これを飲用するものです。分解なので、反対側の陽極側にも物質ができます。水道水に含まれる塩素を利用することで、陽極側に次亜塩素酸水ができ、通常は排水されます。つまり電解中の排水が次亜塩素酸水です。食堂のアルカリイオン整水器には「弱酸性水」のボタンがありますので、そのボタンを押すと、次亜塩素酸水が吐水されます。次亜塩素酸は自然分解しやすいので、説明書によれば、2日以内に使うことを推奨しています。

用途		pHの目安
強2 アルカリ	アルカリイオン水は ●「アルカリ1」 ↓ 「アルカリ2」 ↓ 「アルカリ3」 ↓ 「アルカリ強1」 ↓ 「アルカリ強2」の順に、 pHが約0.5程度強くなります。この取扱説明書ではアルカリ1～3を総称して「アルカリ」と表現しています。 ●「自來水の飲用量は「アルカリ3」で0.5リットルから1リットルを目安にしてください。	11 ↓ 10
強1 アルカリ	「アルカリ3」 ↓ 「アルカリ強1」	10.5 ↓ 9.5
3 アルカリ	「アルカリ強1」	10 ↓ 9
2 アルカリ	「アルカリ強2」	9.5 ↓ 8.5
1 アルカリ	「アルカリ強3」	9 ↓ 8
浄水	浄水は ●ろ過された不純物の少ない水です。	—
弱酸性	弱酸性水は ●肌に近い弱酸性の水です。	6.5 ↓ 5
pH3.0以下 酸性水	酸性水は ●「酸性水」の水栓を絞ると酸性水吐水口からpH3以下の酸性水が出ます。	3.0 ↓ 2.6

pH3の水質表示ランプ

※ pH3の水質表示ランプが点灯したとき